

4月12日(火)まで

「近江ゆかりの工匠—刀工・鑄師・鉄砲鍛冶—」

近江の地では、古くから刀や鉄砲の工人が活躍してきました。中には、彦根を拠点に活動し、全国的に名を知られた名工もいます。本展では、館藏品の中から、近江ゆかりの工匠が制作した刀や鑄、鉄砲などの武具を、江戸時代の作品を中心に紹介します。

4月15日(金)~5月17日(火)

「民窯湖東焼の彩り—絵付師自然齋—」

湖東焼は、江戸時代後期に彦根で産声を上げたやきものです。本展では、湖東焼の窯から素地を仕入れ、自宅で絵付を行った自然齋の作品を紹介します。赤や金などの鮮やかな色で表わされた絵付の魅力をご覧ください。



色絵花卉蓋置(いろえかきすふたおき) 自然齋絵付

ギャラリートーク

4月16日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30

※事前申込:不要 場所:展示室1

観覧料が必要

— 常設展示の名品 —

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に80点あまりを展示しています。

「ほんものとの出会い」

4月13日(水)~6月20日(月) 琵琶 銘千歳



室町時代に制作された琵琶。江戸時代の銘文には、奈良・東大寺の僧尊秀(そんしゅう)が所持していたと記されています。古楽器は、しばしば後世に手を加えることがあり、本作も良い音色になるよう内部を削って調整されました。

4月12日(火)~同14日(木)は、展示替えのため一部を閉室します。

常設展示の名品

文化プラザだより

チケットのお申し込み、お問い合わせは  
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)  
インターネットでも購入いただけます。http://bunpla.jp/

6月8日(水) 14:30 みずほ文化センター多目的ホール

【鼓童】和太鼓コンサート  
in みずほ文化センター



人気和太鼓チーム「鼓童」の選抜メンバーによる公演です。

【4月2日(土)9:00発売】

一般 2,200円、ペア (2枚1組) 4,000円

指定 高齢者・障害者・大学生以下 2,000円

【発売中】

友の会 1,800円

※ペア券はひこね市文化プラザとみずほ文化センターのみの取り扱いとなります。

※未就学児は入場いただけません。

※託児サービスがあります。

【各公演 発売初日の予約の取り扱い】

※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。

※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

ひこね市文化プラザ 友の会会員募集中! 詳しくは☎26-8601へ

ひこね市文化プラザ サポーターズ (運営ボランティア) 募集中!

4月23日(土)、同24日(日) 14:00 エコーホール

エコメモリアル・  
チェンバー・オーケストラ 2016  
~ 格調高く ~



文化プラザの開館と共に結成された室内オーケストラ。今年は彦根でコンサートを2日間、開催します。彦根市出身のソプラノ・田島茂代さんも出演します。

【発売中】

一般 3,000円

大学生以下 1,500円  
友の会・高齢者・障害者 2,700円

※当日券は各500円増。

※公演ごとにチケットが必要です。

※未就学児は入場いただけません。

※託児サービスがあります。

チケット発売情報

◎表記のチケット価格は、すべて税込価格です。

◎高齢者は65歳以上です。学生、高齢者、障害者のチケットはひこね市文化プラザチケットセンター窓口のみの販売となります。

◎託児は、子ども1人1,000円です。公演の10日前までにお申し込みください。

4月の休館日 4日(月)、11日(月)、18日(月)、25日(月)

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

自然齋

— 湖東焼を彩った絵付師 —

湖東焼は、文政12年(1829)に、彦根城下の商人絹屋半兵衛が、仲間と共に始めたやきものです。天保13年(1842)に窯が彦根藩に召上げられ、藩窯として運営されました。文久2年(1862)に藩窯が廃止され、窯場や窯道具一式が、藩窯の職人であった山口喜平らに払い下げられて再び民窯となり、明治28年(1895)まで制作が続けられました。



▲写真1: 赤絵金彩唐人物図四方形火鉢



▲写真2: 同部分

自然齋は、湖東焼の絵付師としてよく知られた人物です。中山道鳥居本宿の自宅で旅館を営むかたわら、彦根藩の許可を得て藩窯から湖東焼の白素地を仕入れ、絵付を行っていました。藩窯の廃止後も、山口喜平の窯の素地などを用い、明治時代以降も絵付を続けました。

写真の作品は、中に火を起こし、暖を取ったり湯茶を沸かしたりするための火鉢です。丸みのある四方形の胴は堂々と張り、胴の上部の1対の耳が洒落た趣を醸し出しています。均整のとれた形態と滑らかな白地の質感や色味から、藩窯で焼かれた素地を用いたと考えられます。胴部分には、「琵琶湖/自然齋陶」(写真2)という銘が入っており、自然齋の絵付であることを示しています。

絵付の模様は、草花や鳥、人物、山間を流るる風景、細かな幾何学文様を敷きつめた縁飾りなど、多様な内容です。自然齋の作品として現存しているものは、小さな盃や煎茶碗、徳利、急須などが多く、本作は、彼の作域の中では比較的大物であったと考えられますが、細かで見事な絵付に仕上がっています。

写真の作品は、テーマ展「民窯湖東焼の彩り—絵付師自然齋—」で4月15日(金)~5月17日(火)の期間、展示します。(期間中無休)

を行う窯師などが携わっていました。これらのさまざまな職人の中でも、絵付師は、鑑賞の主眼となるような絵模様の部分を担当するため、作品の出来を大きく左右する重要な役割を担っていたと言えます。

本作の出来映えからは、成形や焼成、絵付、どの工程においても、高い技術を駆使した丁寧な仕事が行われた様子がうかがわれます。優れた素地を得て、生き生きと絵筆をとる自然齋の姿が思い浮かんでくるようです。

(彦根城博物館学芸員 奥田晶子)